

2019年度 国語科実践・研究計画

部 員	○鎌田 雅子, 菅野 宣衛, 小松田ひかり
-----	-----------------------

研究テーマ

言葉の力を自覚し、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

1 研究テーマについて

言葉の使い手として、言葉の受け手として、私たちは立場を変えながら言葉と向き合っている。「話す」「聞く」「書く」「読む」日々の生活の中で絶え間なく続く言語活動。日常生活における言語活動では、感覚に頼る部分が大きくてもさほど不都合は感じない。そうであるならば、国語科の学習に意義を見いだす瞬間は、新たな言葉の力に気付いたとき、より深く言葉の力を感じられたときではないだろうか。学習の対象として言葉と向き合う中で子どもたちが言葉への知見を深めていく姿を期待し、2年次も「言葉の力を自覚し、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

国語科における「自律した学習者」を、これまでの生活経験、学習経験から言葉との向き合い方を自ら考え、言葉を適切に理解し、よりよく用いようとする姿と捉えた。また、「学びをつなぐ」を、これまで無自覚に使ってきた言葉の使い方、効果を自覚し、次の学習場面や生活の中で活用する姿と捉えている。

昨年度の実践では、子どもの疑問や願いを学習の出発点にして「何について考えていくのか」という学習の内容を明確にすることが、目の前の言葉とじっくり向き合おうとする子どもの姿を引き出す手立てとして有効であると分かった。また、工夫して書かれている文章という意識で教材を読んだり、効果を考えて意図的に言葉を用いる経験したりすることで、その言葉を用いる意味やよりよい使い方を考えようとする子どもの姿が引き出せることが見えてきた。しかし一方で、個々の学びを深める協働的な学びの在り方という点において課題が見られた。相手の考えを受け入れつつ、多様な考えから取捨選択したり、思考を軌道修正したりしながら言葉を適切に理解する力を子どもに育むために、2年次研究では言葉をよりよく捉え直す場面での省察について考えていきたい。

国語科で目指す「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」とは次のようなものである。

- ・言葉から受ける感覚と技法を関係付けて、言葉への理解を深めようとする姿
- ・根拠となる言葉を見付け、課題や問題に対する考えを互いに表現し合う中で新しい言葉の効果を見いだそうとする姿
- ・言葉の効果や言葉に着目した学び方を振り返り、単元を越えて活用する姿

2 研究の重点

(1) 言葉に対する気付きの差異をもとに、言葉への認識を確かにする省察の工夫

言葉に対する認識を新たにしたり，無自覚だった言葉の使い方を自覚したりするためには，自分の言葉の使い方や認識だけがすべてではないことに気付く必要がある。例えば「ごんぎつね」を読んだときの「悲しい」「良かった」という友達との感想の違いは，互いになぜそう感じたのか考え始めるきっかけとなる。また，一つの言葉の解釈の差に問題意識をもたせることで，文章中でのよりよい解釈はどれなのだろうと考えたくなるはずである。

省察を促すために意識して取り上げていく言葉に関する差異は次のようなものである。

- ・言葉から受けた印象の差異
- ・考えの根拠として着目した言葉の差異
- ・言葉の解釈の差異

課題設定場面，協働して言葉を再認識していく場面で，言葉に対する気付きの差異から問いを発する力を育てることが省察に結び付くと考えている。言葉に関するどのような差異を取り上げていくことが効果的かさらに探っていくとともに，協働的な学びが個々の学びに結び付く省察の工夫について考えていく。

(2) 言葉の学びをつなげ、積み重ねることのできる単元構成の工夫

「もし別の言葉に置き換えたなら」「もしこの言葉がなかったら」というように具体的な学び方を明らかにすること，更に，繰り返し用いる場を意図的に設けることが，国語科の学び方の定着に結び付くと考えられる。そして，「どのような方法で何を学んだか」というように学習方法と学習内容を関係付けて蓄積していくことは，学びを自覚する上で有効だと考える。また，「聞くこと・話すこと」「読むこと」「書くこと」などの領域や，「物語」「説明文」，「日記」「意見文」など文種によって異なる効果的な学習過程について考えていく。国語科における系統性を意識した指導の具体を探っていくことで，資質・能力を身に付けるために必要な「見方・考え方」を自覚させるタイミングを探っていきたい。

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携授業 ・附属中学校公開研究協議会 (5/31) ・附属小学校公開研究協議会 (6/7) 提案授業 鎌田：4 A	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 ・附属中学校との共同実践・研究 ・公開研に向けての指導案検討及び事前研究授業
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究パンフレット執筆 ※部内研修会を兼ねる <ul style="list-style-type: none"> ・文集「いちよう」編集・発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・実践・研究計画の修正 ・研究会等の参加による研修と情報交換
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン研修会 (2/4) 提案授業 小松田：1 A	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン研に向けての指導案検討及び事前研究授業 ・次年度の課題検討 ・次年度の実践・研究計画の立案

単元の通年：教科部会，年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正

